まっき ぞの 松木薗遺跡

(日置郡金峰町尾下松木薗ほか)

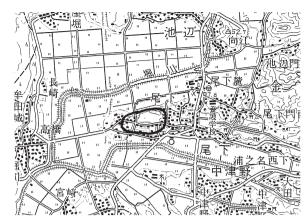
位置と環境

遺跡は、金峰山の西麓から平野中央部へ細長く伸びる尾下台地の先端部近くに位置する。この台地上にはいくつかの遺跡が存在するが、全域がひとつの遺跡として機能していた時代もあったであろう。

周辺には,高橋貝塚や阿多貝塚をはじめとして縄 文時代や弥生時代の著名な遺跡が平野部を囲むよう に存在し,鹿児島県下でも有数の遺跡密集地域とし て知られている。

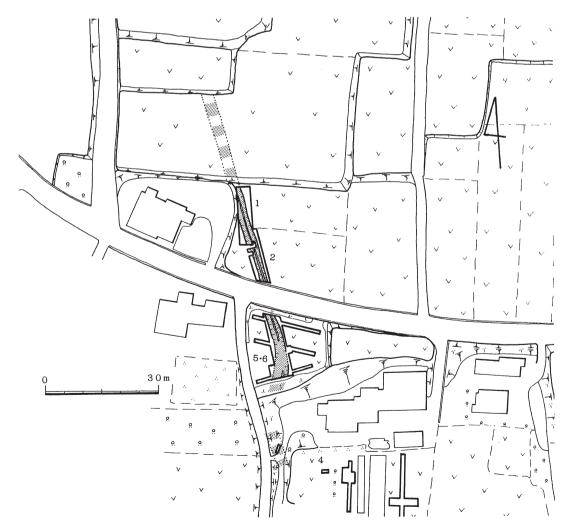
調査の経緯

遺跡周辺は、遺物の散布や工事等による土器の出 土で古くから知られていたが、土取り工事によって 溝状の遺構や南九州で不明瞭であった弥生時代後期



第1図 松木薗遺跡の位置

土器の存在が明らかとなり、注目されることとなった。遺跡の内容を探るため本田道輝が中心となり昭和53年調査を開始した。その後昭和55・56・57年、平成5・7年と、これまでに松木薗地区や拾石畑地区で6次にわたる発掘調査を実施(約270㎡)して



第2図 大溝配置図



写真1 溝の断面と堆積土の状況

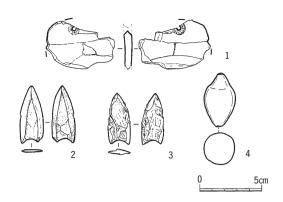
いる。

遺構と遺物

この遺跡で注目すべきは、台地を横切って走る南九州最大規模の溝であろう。残念ながら調査地点はいずれもシラス層まで削平されているが、それでも幅 $2 \sim 4$ m、深さ $1.5 \sim 2.3$ mの規模で確認されている。周辺の土層観察からすれば、少なく見積もっても本来は幅 $4 \sim 5$ m、深さ $2.5 \sim 3$ m程の大きさがあった可能性が高い。断面はV字形で、内部堆積土の状況から溝東側の一部には土塁の存在も予想される。これまでに破壊された箇所も含めて約80mを確認し、このうち約38mを調査した(第2図・写真1)。その規模からして、この溝の掘削は多くの労働力と金属製の道具なしには考えられないであろう。

溝には、1 m程土砂が堆積した段階で弥生後期の遺物が大量に廃棄されている(残りのよいところでは溝の東側からの投棄が認められる)ので、本来の目的で掘削されたのは弥生中期末頃と推測する。同時期の竪穴住居跡の一部も溝の東側台地で確認され、弥生中期末~後期かなりの規模の集落がこの地に存在したことは間違いない。

弥生時代の遺物は、土器以外に石庖丁(第3図1のような抉入もあり)、扁平片刃石斧、砥石、石錘、大形凹石、磨石、磨製石鏃(第3図2・3)、粗製勾玉、軽石加工品などの石器・石製品、炭化種子、炭化木材、鉄鏃、土製投弾などが出土した。このうち天草石の砥石や鉄鏃、土製投弾は各1点の出土で一般的な遺物とは言い難く、他地域からの搬入品と考えた方がよいであろう。抉入石庖丁も、東九州との関連が強い遺物である。



第3図 出土遺物(1)

後期の一群の土器は、この遺跡で初めて器形や器種が明らかになったものであり、松木薗式土器と呼ばれている(第4図のうち7~9を除く)。これらは甕や壺に中九州との近縁性を示しつつも、大隅地方に主たる分布域をもつ山ノ口式土器に系譜をたどれる壺や大甕を取り込んでおり、その組合せが注目されるところである。また北部九州地方や瀬戸内地方の土器(第4図8・9)がそれらに混じって検出され、当時の交流や交易を考える上で貴重な資料となっている。

それ以外に,古墳時代の住居跡,平安時代の柱穴などがこれまでに一部検出され,住居跡の中からは鉄片が,平安時代の土師器には墨書土器が存在することが確認された。

縄文時代の遺構は、今のところ見出されていないが、晩期前半上加世田式時期の遺物が多く、多量の 土器片に混じって石製勾玉や十字形石器が採集されている。遺物の分布状況から判断して、おそらく調 査地点よりも東側に遺跡が存在するものと思われる。 ほかに数量は少ないが、早期~後期までの土器片が 確認できる。

特徴

これまで不明瞭であった弥生時代中期末~後期の 遺跡であり、南九州の弥生時代を研究する上でさけ て通れない遺跡となっている。小規模発掘のため、 遺跡の内容を知るにはあまりに資料不足ではあるが、 これまでに確認した遺構の規模、交流や交易を示す 種々の遺物の存在などから判断して、この地域の拠点 点となる集落と考えてよいであろう。他地域の拠点 集落の広がりからすれば、この遺跡もかなりの面積 を占めることが想像され,松木薗地区や拾石畑地区 にはとどまらない広がりをもつ可能性が高い。

台地を横断すると予想される大溝がなぜ掘削され たのかについては種々の意見があるが、その規模か ら判断して集落防御が第一の目的であり、当時その ような遺構を必要とする社会情勢が存在したと考え る。

資料の所在

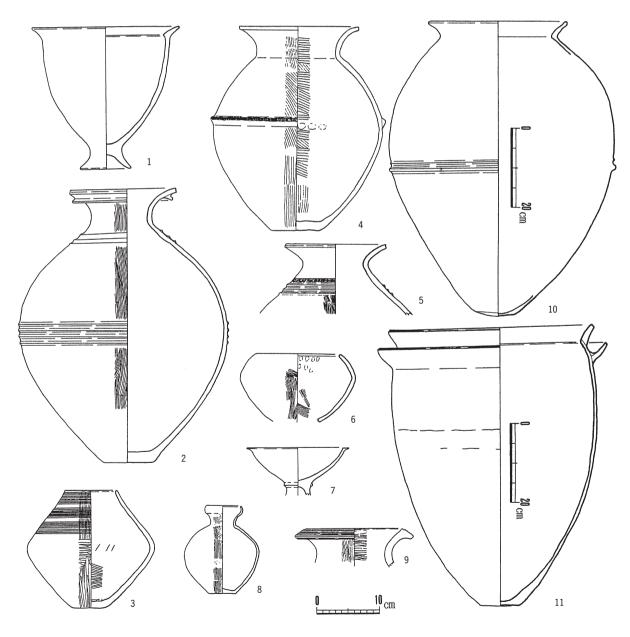
出土遺物は,鹿児島大学法文学部考古学研究室に 保管されている。

参考文献

本田道輝1980「松木薗遺跡出土の土器について」 『鹿児島考古』第14号 鹿児島県考古学会

本田道輝1981「松木薗遺跡の調査」『鹿大史学』第 29号 鹿大史学会

(本田道輝)



第 4 図 出土遺物(2)